

寄付をいただいた皆さん

- ・藤田 綾子
- ・中山 光子
- ・妻鹿 キミ子
- ・中山 修
- ・牧里 每治
- ・緋本 順子
- ・山崎 絹代
- ・山上 美保
- ・岡本 光子
- ・三原 伸也
- ・橋田 てつ子
- ・あとりえ・宝塚
- ・特活(宝塚)NISIITANI
- ・匿名希望1名

新たに入会された皆さん
正会員

- ・藤田 綾子

新たに入会された皆さん
賛助会員

- ・吉野 雅治
- ・吉野 真那
- ・松岡 香江
- ・相田 理絵
- ・木佐 一豊人
- ・横山 晴美
- ・特活 生命保険相談センター

(順不同、敬称略 期間：2015年12月5日～2016年3月10日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 290,758円
2015年4月1日～
2016年3月1日



ご支援ありがとうございました。

(認定)宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」をつくるために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

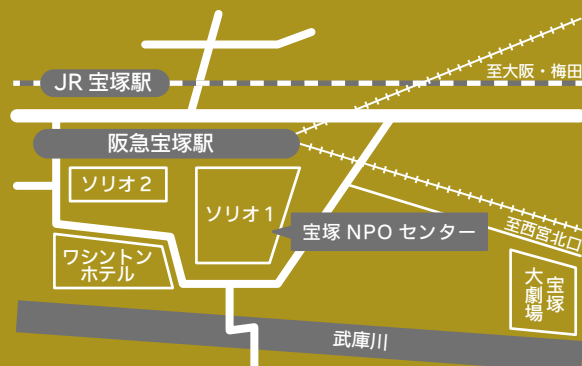
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

銀行振込		郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特)宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定)宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース

TAKARAZUKA NPO CENTER NEWS

市民の手で市民活動を支える

86 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2016.3

すべての父親が子育てしたくなる
「ワクワク」を届けたい

宝塚 NPO センターは
メールマガジンを月 2 回配信しています

zukanpo@hnpo.net

上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

みなさまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 理事長 篠田 厚志

● 協働の場づくり

＜宝塚市市民活動促進支援事業＞

“なぜそこ（居場所）が好きなのですか？”～「まちの居場所のツクリカタ」講座～

若手実践家から居場所づくりを学ぶ本講座。20代から80代までの男女20名が参加されました。開始前から会場の雰囲気は活発で「居場所」に対する関心の高まりを感じました。講師は一般社団法人コアプラス代表 武田緑さん。大阪市東淀川区で多様な人やテーマの架け橋となるため活動しています。

武田さんが居場所をつくりたいと思ったのは、生まれ育った東淀川の団地で経験した助け合いという豊かな関係から。「でも今、世間はそうでもないみたい。だからそんな状況を変えたいと思って居場所づくりをしています」と語る武田さん。「例えば居場所に来る子どもたちに力をつけさせたいと、大人が考えて押しつけたものは大体うまくいかなかった」との経験談に、参加者から相手の目線で企画を考え、相手の力を信じることの難しさを改めて感じたとの感想を頂きました。居場所づくりの大切なコツやポイントをいくつかご紹介します。

- ・来た人にはどんどん手伝ってもらい、役割を持ってもらう
- ・来た人のちょっとした“つぶやき”を大切に
- ・イベントは今いる人向けではなく、新しい人の参加を促すために

こんな場所がまちに増えるということは、多くの人がまちの役割を担える社会になるということ。また、その可能性を「居場所」というキーワードに感じているからこそ、参加希望者も多いのだと思いました。

宝塚が好きな理由は？と聞いた時、「だってここには居場所（＝役割）があるから」と言われるまちづくりを支えたい。ではどうすれば？そんなことを今考えています。



講師の武田緑さん



「居場所」講座は今、注目されています



活発な意見交換がされたワークショップ

宝塚市には、6軒のきずなの家があります

● 市民ネットワークづくり

＜宝塚市きずなの家事業＞

“宝塚まちかど大学がスタート”～学びを通じたつながりをめざして～

リーダーだけでは世の中は変わらない。NPOだけでも世の中は変わらない。

一般の生活者である自分たち一人ひとりが学べる場をつくろう。きっと、何かが変わる。そして、その「学び」でつながった人たちが何かを変えていこう。2月9日、宝塚NPOセンターが運営するコミュニティカフェKaRuTaは、ハーバード大学白熱教室さながらの学びの場になりました。10坪ほどの会場は、宝塚市のみならず神戸市や西宮市から訪れた25名の熱気で包まれました。第1回のテーマは「一人も忘れられない社会へ…無縁社会とコミュニティソーシャルワーカー」講師は宝塚NPOセンター牧里毎治理事長。豊中市で起きた60代姉妹の孤独死事件を例にとり、リーマンショックのような世界経済の渦の中に巻き込まれるなど自分たちでは抗うこともできないことをきっかけに、簡単に生活が崩れてしまう現実の中に私たちがいることを話されました。誰か相談できる相手がいたら、状況は変わっていたとも。暮らしが個人化している現在は、一人で生活を完結することは容易い。ところが、病気や高齢化などをきっかけに一人で生活が完結できなくなった時には、一気に問題が押し寄せることになる。そのためにも、日頃から頼れる関係性を築ける社会をつくっておく必要がある。しかし、その社会から忘れられた人を私たちはどのように気づいたら良いのか？大きな宿題を出された講義でした。



講師の話に聞き入る参加者

○ お知らせ

正会員以外の方も参加できる交流会も予定しています!!

平成28年度通常総会 **5月15日(日)** 場所：宝塚市立勤労市民センター

「子育てするのに理由を必要としない世の中に」

「イクメン」という言葉が出てきてずいぶん経ち、ようやく父親の子育てが認知されるようになってきたなあと思います。

でも、実際に子育ての時間が増えたのか？というとまだまだ微々たるものです。

全国の父親の家事育児時間(平均)は、母親の7時間41分/日に比べて、約1/7の1時間7分/日ほどしかありません。(※平成23年度社会生活基本調査)

まだまだこれからだと思っています。この先、父親の子育てはますます求められます。

今はまだ、父親が子育てをするのに理由付けをしななければいけません。でも、いずれ無条件に子育てに関わらなければならなくなるはず。そもそも、子育てすることに理由って必要なのかな？って思うのです。

子育て「したい」、「したくない」、「できる」、「できない」ではなくて、当たり前みんなが「する」世の中が、本来あるべき姿なのではないでしょうか。道のりはまだまだ先ですが、僕たちはそのために、まず子育てをもっとワクワクするものにしていきたいなと思っています。

特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 理事長 篠田 厚志



大人気企画「親子でワイルド遊び」は大阪・梅田で定期的開催



自分たちらしい企画を作るための会員による真剣な話し合い



数々の企画は親子が夢中になって遊び、笑うために行います

取材に行ってきました! /

「年間100万人生まれているお父さんが“笑顔の子育て”に関われるように」

世にイクメンブームを巻き起こしたNPO法人ファザーリング・ジャパン。父親に子育て・地域活動の楽しさを伝えるとともに、子育てに関する社会問題をパパから発信して解決する取り組みを行っています。その関西支部として発足し、2013年4月に法人格を取得したNPO法人ファザーリング・ジャパン関西 理事長の篠田厚志さんにお話を伺いました。

「子育てを中心に据えると、考え方が変わる」

自宅の3軒となり仕事場がある篠田さん。奥さんも仕事をされているのでお子さん2人の育児と家事を分担しておられます。公務員を辞め、NPO法人運営に関わる理由は「子どもが大きくなった時により多様なアドバイスができると思った」からだそう。一社会人として充実した仕事をするのも大切ですが、子どもに将来「こんな親になりたい!」と思ってもらえることのほうが大切で、何より楽しいと語ります。

「働きながらの子育てを“見える化”することで社会を変える」

一方「誰にとっても子育てはとまどいの連続。働きながら、となればなおさら。子育ては正直妻と同等ではないですよ」と語る篠田さん。多くのお父さんが育児に関われない理由を「何をしたらいいかわからない」からと考え、「子育ての見える化」を行っています。「親子でワイルド遊び」や「パバクエスト」などパパが自ら楽しめそうな企画開発や、時にはご自身のブログを通じて語られる子育てと仕事の両立に対する等身大の悩みは、働きながら行う子育てのハードルを下げようとする取り組みなのだと思います。

「笑っている親と子どもを増やしたい」

みんな親として、よくなろうとつい頑なになりがち。しかしそこに親と子どもの笑顔がなければ、行動の意味や価値は半減してしまいます。まずは自分のできることを、頼り頼りながらも試してみる。そうやってよいバランスを見つけていくことが、結果としてサステナブルな社会をつくるのかもしれない。